

○繁多寺境内

寺伝によれば、天平勝宝年間（749～757年）に孝謙天皇（在位749～758年）の勅願により、行基菩薩が薬師如来像を彫像して安置し、「光明寺」として創建され、弘仁年間（810～824年）に弘法大師が逗留し、「東山・繁多寺」と改め、霊場としたとされています。

その後、寺は衰微しますが、伊予国司・源頼義らの援助により再興し、弘安2年（1279年）には後宇多天皇（在位1274～1287年）の勅命を受け、聞月上人が蒙古軍の撃退を祈祷しています。また、時宗の開祖・一遍上人が青年期に修行し、晩年の正応元年（1288年）には亡父が所蔵していた『浄土三部経』を奉納しています。さらに、江戸時代には、四代将軍・徳川家綱（在職1651～1680年）が念持仏としていた歓喜天を祀るなど、大寺として栄えたとされています。

明治9年（1876年）の火災により歓喜天堂や庫裏は焼失しましたが、徐々に再建し、現在に至っています。なお、境内地の南方に、近世に造立された聞月上人を供養する宝篋印塔が建つ墓域があります。



繁多寺本堂